

授業概要

日本では、高度経済成長の犠牲として、公害問題や自然破壊が生じたという言説が一般的です。しかしながら、本講義では、公害に苦しむ人々土台にして、あるいは様々な生物のジェノサイドのうえに成り立っていた経済成長であったという認識に立ちます。このような考え方にに基づき、環境問題を解決するための経済学の一部野である「環境経済学」を扱うものとします。

環境経済学は、環境問題を外部性の問題（外部不経済）として捉える学問ですが、実際の環境問題においては、市場経済からのアプローチのみで説明・解決できることはそう多くはありません。そのため本講義では、環境経済学的視点を環境問題を可視化させるための有力な手段のひとつとして中心軸におき、多面的・多角的な考察を試みます。

授業計画

第 1 回	ガイダンス（講義の進め方や成績の評価方法などについて）
第 2 回	野生動物は誰のものか 1（野生動物と野生動物でない動物の違い）
第 3 回	野生動物は誰のものか 2（野生動物への餌付け）
第 4 回	野生動物は誰のものか 3（野生動物への対策が観光に与える影響）
第 5 回	ペット産業の闇 1（殺処分減少の嘘）
第 6 回	ペット産業の闇 2（殺処分はなぜ受益者の負担ではないのか）
第 7 回	公害と高度経済成長 1（水俣病の真実）
第 8 回	公害と高度経済成長 2（政官財学の癒着構造が生んだ罪なき被害者たち）
第 9 回	公害と高度経済成長 3（水俣病は終わっていない）
第 10 回	福島原発事故 1（政官財学の癒着の象徴、原子力発電）
第 11 回	福島原発事故 2（日本経済を破たんし追いやる原子力政策）
第 12 回	福島原発事故 3（反省なき電力会社）
第 13 回	沖縄米軍基地移転問題 1（辺野古の座り込みとは何か）
第 14 回	沖縄米軍基地移転問題 2（偏狭なナショナリズムが浮き彫りにする国民不在の国家観）
第 15 回	沖縄米軍基地移転問題 3（沖縄を孤立化させる日米地位協定）
第 16 回	筆記試験

到達目標

- グループワークを通して、
- ・受講者間で情報共有できること
 - ・多様な価値観について相互理解ができること
 - ・様々な角度から問題を検証する習慣を身につけること

履修上の注意

本講義では、4～6名程度のグループをつくり、グループディスカッション形式で行ないたいと考えている。そのため、欠席者がいると講義進行に支障をきたす恐れがあるため、できる限り避けるようにすること。ただし、新型コロナウイルス感染が懸念される場合は座学に切り替えるものとします。

予習・復習

予習は、次回の講義で扱うテーマのチェックは必ずしておくこと。授業内で予習や事前準備等の指示をすることがある。原則的に講義毎に必ずレポートまたは感想文を提出してもらうことで復習の一環とします。これは講義を聞くだけでなく、学んだことを忘れないうちに整理し、自分のものにするための訓練です。講義で使用するもの（例えば、スーパーのチラシなど）については、事前に準備しなければならない時間があるので、その旨の指示があった場合は前もって時間をかけて集めておくようにすること。

評価方法

グループディスカッションにおける発表（80%）と筆記試験（20%）によって評価します。

テキスト

資料が必要な場合は、その都度こちらで用意するので、特に必要はありません。